

※事務事業コード／ 0110040206

平成 26 年度 事務事業シート

部署名	部 教育委員会	課 千代田公民館	事業年度期限	●無 ○有 (平成 年度～平成 年度)			
会計	一般会計	款・項・目 100402公民館費	新規／継続 (事業区分1)	継続	市民協働	行政主体	総合計画コード 3215
事業名	06千代田公民館管理事業						
目的 (成果)	地域住民の交流の場として、地域コミュニティづくりのために維持・管理する。						
内容 (概要)	市民の多種多様なレクリエーション及びコミュニティづくりの活動の拠点として安全性を確保し、快適な環境を提供するため、維持管理を行うとともに設備・機器等の点検及び修繕を行う。						

■事業費 (単位:円)

	平成24年度 決算			平成25年度 決算			平成26年度 予算			
事業内容	施設・受水槽・地下タンク等清掃、樹木手入れ、空調設備保守点検、消防設備保守点検、浄化槽保守点検、電気工作物保守点検、本館耐震診断			施設・受水槽・地下タンク等清掃、樹木手入れ、空調設備保守点検、消防設備保守点検、浄化槽保守点検、電気工作物保守点検			施設・受水槽・地下タンク等清掃、樹木手入れ、空調設備保守点検、消防設備保守点検、浄化槽保守点検、電気工作物保守点検			
財源内訳	国庫支出金			国庫支出金			国庫支出金			
	県支出金			県支出金			県支出金			
	市債			市債			市債			
	その他			その他			その他	182,000		
	一般財源	17,234,928		一般財源	17,061,031		一般財源	16,880,000		
計	17,234,928		計	17,061,031		計	17,062,000			
歳出内訳	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	節番	節名称	金額	うち臨時分
	07	賃金	21,000	07	賃金	21,000	07	賃金	21,000	
	11	需用費	7,329,513	11	需用費	8,107,802	11	需用費	8,844,000	
	12	役務費	253,879	12	役務費	288,611	12	役務費	238,000	
	13	委託料	6,430,225	13	委託料	5,181,163	13	委託料	4,797,000	
	14	使用料及び賃借料	3,089,705	14	使用料及び賃借料	3,118,055	14	使用料及び賃借料	3,132,000	
	16	原材料費	29,000	16	原材料費	29,000	16	原材料費	30,000	
	18	備品購入費	72,806	18	備品購入費	306,600				
	27	公課費	8,800	27	公課費	8,800				
	決算額計		17,234,928	決算額計		17,061,031	予算現額計		17,062,000	0
(参考)	H24当初予算額		19,788,000	H25当初予算額		15,427,000	伸び率(%) 対・決	0.0	対・予	10.6 +
人件費	職員人件費	1.00 人工	8,068,000	職員人件費	0.50 人工	4,029,000	職員人件費	0.35 人工		2,699,000
総事業費	歳出+職員人件費		25,302,928	歳出+職員人件費		21,090,031	歳出+職員人件費			19,761,000

【特記事項】

○25年度主な支出  
 光熱水費 4,720,358円  
 施設管理委託(シルバー) 3,549,291円  
 土地借上げ料 2,827,247円

【千代田公民館概要】  
 S53. 12開館  
 保有面積2,579㎡(うち会議室312㎡、視聴覚室152㎡、図書室85㎡、調理実習室89㎡、講堂1,054㎡など)

■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	利用日数	日	千代田公民館本館の利用日数	目標	280	280	300
				実績	303	303	
成果指標	延べ利用人数	人	千代田公民館本館の延べ利用人数	目標	10,000	10,000	15,000
				実績	14,442	14,321	
				目標			
				実績			

■事務事業の点検

必要性の点検

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>  
 公民館は、地域住民のため、地域の多様な学習機会、学習情報の提供等を通じて、地域住民の学習活動を支援する、地域に密着した重要な施設である。

目標達成状況の点検

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

実施内容・方法の点検

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>  
 委託や危険箇所から優先的に修繕を行うこと等により努力していく。

■課題と対応方策

課題	老朽化により、正面玄関左脇の外壁、視聴覚室への雨漏り等、不安な状況の箇所も見受けられ、安全性からも今後の修繕に課題が残る。
次年度における対応方策(改善方策)	施設の維持費について厳しい現状であるが、危険箇所から優先し、機能の回復へと対応したい。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	将来的には千代田地区地区公民館の地域コミュニティの拠点の場として活用していきたい。そのためには、老朽化箇所の修繕工事やバリアフリー対応設備の整備を進める必要がある。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	生涯学習課 中泉栄一 担当課名 千代田公民館
事業の方向性	<input checked="" type="radio"/> このまま継続 <input type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止( 年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	全庁的に進めているFM事業(施設の適正配置)を踏まえ、施設の適正な管理を進めていく。

二次評価【部長評価】

部長名	教育部長 小松塚隆雄	担当部名	教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認		

FMの中で、長期的な視点で施設の改修について検討してください。



■指標

種類	指標名	単位	説明		平成24年度	平成25年度	平成26年度
活動指標	開設数	件	講座及び教室の開設数	目標	20	20	20
				実績	27	28	
成果指標	受講率	%	講座及び教室の定員総数に対する受講者総数の率	目標	80.00	80	80
				実績	96.41	97.25	

■事務事業の点検

**必要性の点検**

法定受託事務であるなど、市が実施する義務がある

事業を休廃止した場合、市民生活(行政サービスの提供)に深刻な影響が発生する

社会情勢の変化を踏まえても十分なニーズがある(ニーズを説明できる)

【必要性 Total判定】

A:高い(義務)     B:普通     C:低い

<Total判定の根拠など、必要性に関する補足説明>

自ら学習活動に参加し、学ぶ楽しさや喜びを感じながら自己実現を図られるよう、多種多様な講座を開設し、地域住民の学習活動に努めた。

**目標達成状況の点検**

活動に関する昨年度の目標は概ね達成できた

成果に関する昨年度の目標は概ね達成できた

「取り組み方針(改善方針)」など指標に表れない事項について昨年度の目標は達成できた

【目標達成状況 Total判定】

A:目標よりも大きな成果が得られた     B:概ね目標の成果が得られた

C:目標とする成果が得られなかった

<Total判定の根拠など、目的達成状況に関する補足説明>

講座ごとに受講者総数にバラつきはあるが、目標の80%以上の講座及び教室の定員総数に対する受講者総数の率があり概ね目標の成果が得られた。

**実施内容・方法の点検**

社会情勢やニーズの変化等を踏まえると、サービス対象・水準を見直す必要がある

当該事業の受益者が特定の個人や団体に偏っている

民間事業者やNPOなどに任せられる業務がある

コストを下げる工夫が考えられる

成果を高める工夫が考えられる

【実施内容等 Total判定】

A:見直す余地があり直ぐに実施     B:見直す余地があるが時間が必要

C:見直す余地がない

<Total判定の根拠など、実施内容・方法に関する補足説明>

講座のテーマがマンネリ化し、受講生も顔なじみの方が多い。

■課題と対応方策

課題	講座のテーマにより参加者数が多いものと、少ないものがあり、バラつきがある。
次年度における対応方策(改善方策)	各講座とも受講者にアンケート調査を実施した中で、市民の意見を尊重し、様々な学習活動の機会を提供していく。
中長期的な視点での対応方策(改善方策)	講座の修了後にはサークル活動や同好会等の自主活動につながっていくように、学習活動の機会を支援していく。

■今後の方向性

一次評価【課長評価】	
評価者	生涯学習課 中泉栄一 担当課名 千代田公民館
事業の方向性	<input type="radio"/> このまま継続 <input checked="" type="radio"/> 改善して継続 <input type="radio"/> 休廃止( 年後を目処) <input type="radio"/> 終了
事業費の方向性	<input type="radio"/> 増額 <input checked="" type="radio"/> 現状維持 <input type="radio"/> 減額
次年度の取組方針(改善方針)	各文化団体等の会員の高齢化が進み、社会教育施設利用者数が減少していることもあり、新しい同好会やサークル等が結成されるような講座の企画や講座受講生への働きかけをお願いしたい。

二次評価【部長評価】

部長名	教育部長 小松塚隆雄	担当部名	教育委員会
確認	<input checked="" type="checkbox"/> 確認		
	地域の特性や課題を踏まえ、時代に即した公民館活動が推進できるよう事務局として取り組んでください。		